

【共通評価基準】

III-2-(2) 子どもに対する育成支援の計画が策定されている。		第三者評価結果
41	① 育成支援の計画を適切に策定している。	A
	子どもの育成計画は、「学童クラブ育成指針」に基づいて月間目標をたて、具体的な実施内容、子ども行事や父母会行事も落とし込み年間の計画として作成されています。また、特別に配慮が必要な子どもには「人つながる力」「課題を解決する力」「将来に向かう力」の視点からアプローチをして、アセスメントを行います。アセスメントで把握した情報にも基づいて個別支援計画が作成されています。	
42	② 定期的に育成支援の計画の評価・見直しを行っている。	A
年間計画は、年に1度全職員で評価され検討し、見直しが行われています。また、特別支援が必要な子どもは、行動（言葉、表情、動きなど）の経過、支援員の理解と関わり、働きかけについて育成場面記録に記載をして、その結果を個別計画に落とし込んでいます。		
III-2-(3) 育成支援実施の記録が適切に行われている。		第三者評価結果
43	① 子どもに関する育成支援実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	A
	特に支援が必要な子どもにはあてはまりませんが、傾向がある子どもについては一人ひとりの様子を毎月記録をし、状態観察に努めています。また、学童クラブの日々の活動状況は、「学童日誌」に落とし込まれています。学年ごとの登所人数、職員の出勤状況、事務連絡、行事、間食、家庭との連絡事項、そのひ行った学童クラブでの活動内容が時系列で記録されています。職員が全員そろった段階で申し送りも行われてい	
44	② 子どもや保護者等に関する記録の管理体制が確立している。	A
	子どもや家庭の状況は、保護者に「児童台帳（兼）家庭状況記録簿」に記入をしてもらい管理しています。本人や家族の状況はもちろんのこと、習い事の曜日、習い事がある日の学童を出る時間なども把握しています。保護者とは連絡帳で子どもの様子を常に伝えています。	

【内容評価基準】

A-1—(1) 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備		第三者評価結果
A①	① 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整備している。	A
A-1—(2) 放課後児童クラブにおける育成支援		第三者評価結果
A②	① 子どもが放課後児童クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している。	A
A-1—(3) 子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援		第三者評価結果
A④	① 子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるように援助している。	A
A⑤		B
A⑥		B
A⑦		A

